



### 発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟  
[www.hamanasu.com./dohekiren](http://www.hamanasu.com./dohekiren)

委員長 穴田 博 樹

編集責任者 柿崎 秀 顕

印刷所 広小路印刷株式会社

滝川市一の坂町西3丁目1番31号 TEL0125-22-4325

題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

## へき地・複式教育の充実と発展のために

### 実践研究の積み重ねと

### 加盟校間の連携を深めましょう

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 穴田 博 樹



平成24年度の活動を終えるにあたり、全道各地の会員の皆様にあらためて感謝を込め、ご挨拶申し上げます。

今年度は、第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会が、全道各地より多数の参加者を得て、盛会裏に終えることができました。石狩管内へき地・複式教育研究連盟の積み上げてこられた実践研究にあらためて敬意を表しますとともに、大会実行委員の皆様にも深く感謝いたします。また、第62回全道大会を開催する日高地区では、10月にプレ大会を開催しました。来年度は、道へき・複連の第8次長期5か年計画の最終年ですので、更なる実践の深化、充実に期待しております。そして、2年ぶりに実践研究大会を開催しました。3地区から3校の研究発表、研究協議、教育大の戸田講師に講話をいただく内容で、研究推進計画に基づく実践研究の成果と課題を協議し、複式教育の充実と発展を図る内容でありました。

さて、ご存知のとおり、全国的にへき地・複式校は減少しています。当連盟の加盟校も減少の一途であり、事業の見直し等も不可避と判断せざるを得ないほど様々な課題があります。このような

状況において、複式形態の授業経験者がいない学校、近隣に複式校がなく指導の実際を研修するのが困難な学校等、複式学級の教育課程や授業を充実させるための課題を抱えている学校もあると思います。このような中、北海道教育大学では選択履修「へき地校体験実習」の中で学生が複式学級における指導方法等の体験をしていますし、また、北海道立教育研究所・北海道教育大学より今年度、授業の手引書として「複式学級における学習指導の在り方(改訂版)」が刊行され、心強く思うところであります。

このように様々な手立てがとられる中で、教育研究を本分として歩んできている当連盟の役割も大いに高まっていると考えます。上記課題の克服のために、当連盟事業の充実とともに、授業研究等の研修では、地区連盟外の学校とも協力し合えるような加盟校の連携を促進する必要性も強く感じているところです。

終わりになりますが、今後も、これまで培ってきた北海道のへき地・複式教育の財産を大切にするとともに、各校の実践研究の積み重ねと加盟校間の連携を深め、へき地・複式教育の更なる充実と発展に前進していく所存です。今年度ご理解、ご支援をいただきましたことに感謝とお礼を申し上げます、ご挨拶といたします。

## 平成24年度 会務報告

事務局長 三浦 徹

### 1 一般経過報告(概要)

5月11日	平成24年度定期総会 第1回組織検討委員会
21日	第1回企画委員会、長計策定委 員会、第1回研究推進委員会
~22日	第1回常任委員会、関係機関挨拶 回り
22日	第1回常任委員会、関係機関挨拶 回り
31日	全へき春季総会、第1回理事会
~6月1日	
11日	平成24年度要覧HP掲載
13日	地区役員一覧、地区研究大会情報 を各管内事務局にメール送信
16日	道へき・複連情報144号発行
28日	第2回常任委員会
7月4日	全へき連総会議案書、全へき連通 信を各管内事務局に送信
9日	第2回企画委員会、長計策定委 員会、第2回研究推進委員会
~10日	
26日~27日	全へき連第2回理事会
8月2日	第2回組織検討委員会
3日	日高プレ大会挨拶回り
25日	道へき・複連OB会定期総会
9月19日	第3回常任委員会
20日	第1回監査委員会、評議委員会
20・21日	第61回全道へき地複式教育研究大 会石狩大会
10月5日	第62回全道へき地複式教育研究 大会日高プレ大会
12日	大会日高プレ大会
17日	全へき秋季総会、第3回理事会
18日	第61回全国へき地教育研究大 会和歌山大会
~19日	
25日	第3回企画委員会、第3回研究推 進委員会
26日	第27回北海道へき地複式教育実践 研究発表大会
11月9日	全へき連総会議案書、全へき連通 信を各管内事務局に送信
10日	道へき・複連OB会役員会
15日	道へき・複連情報145号発行
28日	全へき連ブロック代表者会議
29・30日	第38回全へき連研究推進協議会
1月11日	第4回企画委員会、長計策定委 員会

24日 第4回常任委員会、第3回組織検  
討委員会

2月14日 全へき連第5回理事会

15日 第4回研究推進委員会

道へき・複連情報146号発行

5月9日 第5回常任委員会、第2回監査委  
員会

10日 平成25年度定期総会

### 2 一般業務報告

平成24年度においても、研究、組織、教育条件整備等の当面する課題について解決に向け努力して参りました。概要を報告いたします。

◆ 研究面では、道へき・複連の第8次長期5か年研究推進計画の4年次に当たり、第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会(3市1町6分科会)、第62回全道へき地複式教育研究大会日高プレ大会(5町7会場)、第27回北海道へき地複式教育実践研究発表大会を開催いたしました。また、各管内研究大会も開催され、研究の深化・拡充に努めていただき、会員の授業力等、資質向上の機会となりました。石狩管内において開催されました61回全道へき地複式教育研究大会では、現地実行委員会との連携を密に北海道教育委員会のご支援をいただき、全道から約500名もの関係者の参加により、盛大かつ成功裏に大会を終了することができました。このことは石狩管内へき地・複式教育研究連盟並びに会場校の多大なご努力とご協力の賜であり、石狩管内における実践的な研究成果が全道に発信されるとともに、実践交流の機会となりました。今後の研究推進の展望を拓く大きな成果を上げることができました。大会の詳細については、大会部活動報告をご覧ください。

◆ 組織面では、児童生徒数の減少、さらには自治体における学校再編計画が示されるなどへき地・小規模校の統廃合が進んでいます。この先3年以内の統廃合の状況を調査したところ、小学校で34校、中学校で8校の統廃合が決定しています。今後も加盟校及び会員が著しく減少していくことから、組織や運営について、組織検討委員会の答申を受け、スリム化に向け検討してきました。しかしながら、総務部、研究部、大会部、財政部の4部と事務局の組織体制のスリム化は限界にきております。また、本年も取り組んできましたICT(情報通信技術)の活用や

連盟事務局をはじめ地区事務局も含めた事務・業務の効率化をさらに進めていく必要があります。

新たにへき地、複式校となった未加盟校への働きかけについては、道へき・複連の発足の趣旨や目的等について啓発活動を行うなど、各地区での意識高揚に向けた取組をお願いしてきました。

- ◆ 教育条件整備については、3学級4定員、教頭の無配置校の解消をはじめ、へき地・複式校の抱える諸課題に、全へき連、道小、道へき・複連OB会等とも連携しながら、関係機関に要請してまいりました。

国の「へき地指定基準」が改正され、それを基に平成22年4月に新たな「へき地級数」が適用されました。道へき・複連としては、全へき連を通して文科省に北海道の実態について情報提供をするなどの取組を行ってきた結果ではありますが、今後においても、新しい基準がへき地の実態に適切に反映したものであるかなどの情報収集に努め、不適切な級地については国や道へ改善の働きかけをしていく必要があります。

- ◆ 研究、組織、財政などの諸課題につきましては、今年度も組織検討委員会から中間報告を受けたところです。学校統廃合が加速する中で大きな変革の時期を迎えています。今後、総会時での最終報告を受け、できるところから解決・改善に努めていきます。

### 3 情報関係活動経過報告（概要）

5月11日	定期総会で「道へき・複連情報」発行計画を承認、144号原稿依頼
6月2日	144号原稿集約
22日	144号発行
7月23日	道へき・複連ホームページ更新
9月19日	145号原稿依頼
11月2日	145号原稿集約
26日	145号発行
12月7日	道へき・複連ホームページ更新
10日	146号原稿依頼
2月1日	146号原稿集約
15日	146号発行
16日	道へき・複連ホームページ更新

### 4 情報関係業務報告

#### (1) 情報関係

「道へき・複連情報」を3号（144、145、146）発行し、広報活動に努めました。

144号では定期総会特集、145号では第61回全道へき地教育研究大会石狩大会特集号、146号では平成24年度の活動報告を特集し、情報を提供することができました。

道へき・複連ホームページの内容更新は、北海道教育大学学校・地域教育研究支援センターへき地教育支援部門にご協力をいただきました。

「道へき・複連情報」につきましても、123号から146号までホームページ上に掲載しております。

各地区へき・複連事務局の皆様には、ご多用の中、情報提供、加盟校への種々の連絡や配付等にご尽力いただき、心よりお礼申し上げます。

〈各号の主な内容〉

#### 【144号】

- 平成24年度道へき・複連定期総会特集号
- 平成24年度道へき・複連「定期総会」報告
- 第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会案内
- 第62回全道へき地複式教育研究大会日高プレ大会案内

#### 【145号】

- 第61回全道へき地複式研究大会石狩大会特集号
- 第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会報告
- 第62回全道へき地複式教育研究大会日高プレ大会案内

#### 【146号】

- 平成24年度道へき・複連活動報告特集号
- 平成24年度道へき・複連活動報告
- 第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会に向けて
- 第63回全道へき地複式教育研究大会十勝プレ大会に向けて

《道へき・複連ホームページの内容》

- ・シンボルマーク、へき地教師の歌
- ・要覧、研究主題
- ・全道へき地複式教育研究大会関係

- ・全道へき地複式教育研究大会プレ大会関係
- ・北海道へき地複式教育実践研究発表大会関係
- ・全国へき地教育研究大会関連
- ・「道へき・複連情報」
- ・地区へき・複連情報 など

(2) 「全国へき地教育新聞」関係

① 「全国へき地教育新聞」拡大の取組

総会等において意義や利点を踏まえ購読拡大の取組をお願いしてきました。

- ・「全国へき地教育新聞」は、全国へき地教育研究連盟が編集し、教育新聞社が発行するもので、全へき連とへき地・複式校を結ぶ唯一の機関紙である。

内容は、各種教育情報や教育研究大会情報、教育実践を発表するなど、我々がつくる我々の新聞である。

- ・「全国へき地教育新聞」は、読者の購読料によって刊行されており、数の減少が発行を困難にする大きな要因になってきている。
- ・各地区へき・複連の財政に多少の貢献がある。各地区へき・複連で納入する場合、一部につき150円の還元がある。

〈取組の手立てとして〉

- 各地区へき・複連で地教委等、関係機関に購読料の予算化を働きかける。
- 各地区へき・複連の会議、会合などで購読を呼びかける。
- 各地区へき・複連に「全国へき地教育新聞」担当者または係を置くようにする。

以上のような働きかけを行いながら、各地区へき・複連のご協力をいただき、購読拡大の取組をしてきました。

今後ますます統廃合や町村合併、市町村財政逼迫等により購読数の減少が予想されますが、「全国へき地教育新聞」の「へき地・複式・小規模校交流の場、情報交換の場」としての意義を理解していただき、購読について強く働きかけていきます。

② 「全国へき地教育新聞」原稿執筆の取組

原稿種別、送付月を地区毎に割り振り執筆をお願いしました。各地区へき・複連のご協力と執筆者各位に心より感謝とお礼を申し上げます。

新聞掲載については、順次掲載され、情報、実践の交流がなされております。

③ 「全国へき地教育新聞」執筆原稿依頼について

平成24年度の原稿執筆依頼送付については、次の通りお願いしました。

全国へき地教育新聞編集局の依頼で、執筆原稿はメールまたは封書にて返信することになっていきますので、次年度もそのようをお願いすることになります。

④ 「全国へき地教育新聞」の《原稿種別》

1. 論評（市町村教育長、各局指導主事）
2. 山紫水明（校長）
3. 随想（教頭、教務主任、学級担任など）
4. 心温まる話（どなたでも）
5. 私の推薦する一冊の本（校長、教頭他）
6. やすらぎ保健室（養護教諭）
7. さわやか事務室から（事務職員）
8. わが町・わが学校（保護者）
9. 研究実践校紹介（実践校）
10. 子どもたちの学校紹介
11. 子どもたちの作品

「全国へき地教育新聞」原稿執筆者地区別一覧  
(平成24年度原稿本数42本)

原稿種別番号	8月	9月	10月	11月
1	*	後志	*	石狩
2	釧路	宗谷	十勝	後志
3	胆振	渡島	上川	根室
4	後志	日高	渡島	留萌
5	オホーツク	留萌	釧路	檜山
6	上川	オホーツク	根室	十勝
7	渡島	空知	宗谷	釧路
8	石狩	十勝	檜山	日高
9	根室 日高	胆振 檜山	留萌 オホーツク	宗谷 空知
10	空知	*	*	上川
11	*	上川	空知	*

## 平成24年度 総務部活動報告

副委員長 河田 茂

### 1 活動経過報告

- 5月11日 道へき・複連総会  
第1回組織検討委員会
- 5月22日 第1回常任委員会  
常任委員関係機関挨拶回り
- 6月20日 全国基本調査依頼（全道14管内）
- 6月22日 第2回常任委員会
- 8月2日 第2回組織検討委員会
- 9月19日 第3回常任委員会
- 9月20日 平成24年度評議委員会  
組織検討委員会中間報告
- 9月20～21日  
第61回全道へき複研究大会石狩大会
- 9月27日 中間答申意見集約及び加盟校予測調査依頼（全道14管内メール配信）
- 10月5日・12日  
第62回全道へき複研究大会日高プレ大会
- 1月24日 第4回常任委員会・第3回組織検討委員会

### 2 平成24年度教育予算要望

総会で提案したとおり、道小の中で意見反映を行いながら、道小・道中・道教頭会と一体となって、以下の内容で要望活動を進め、各地区からの要望事項の実現に努めてきた。

〈基本的な要望事項〉

1. 教員定数の配置基準および学級編成基準の改善
2. 教職員の生活の安定・向上のための改善
3. 教職員の資質向上に関わる研修についての改善
4. 学校経営の適正化と充実への対応
5. へき地教育の推進についての改善
6. へき地勤務条件の充実

### 3 へき地級別指定見直しに関する取組

「へき地手当に関する規則の運用等についての一部改訂」により、H22年4月から新級地の適用が始まり、経過措置として、級地が下がる学校等に勤務する教職員に対し、当該学校に勤務している間、従前の手当額が支給されている。

しかし、複式校でありながら無級地となった学校で、へき地手当の支給されていない職員（異動してきた職員）から会費徴収の同意が得られず、退会を余儀なくされる学校が出てきており、会員確保に大きな支障が生じてきている。次の見直しは、平成26、27年頃と考えられるので、今後も、地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかなどの情報収集に努め、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携しながら、国や道へ意見具申を続けていく。

### 4 調査活動について

- (1) 全へき基本調査について  
各地区連盟のご協力により、予定通り集約し、提出完了。全へき連より集約結果が届き次第、配布の予定。
- (2) へき地・複式教育に関する実態調査  
へき複校の統廃合が急速に進んでいる現状から、各管内の今後のへき複校の数の見直しについて調査を実施した。
- (3) その他調査依頼  
1月末現在、依頼なし

### 5 組織検討委員会の活動概要

今年度も組織検討委員会を設置して、組織体制、研究活動、財政等の在り方や改善について協議・検討してきた。

#### (1) 組織検討委員会の構成

委員長：渡辺 雅行（道央ブロック・後志）  
委員：岩間 唯史（道南ブロック・渡島）  
：田中 和敏（道北ブロック・上川）  
：山田 雅司  
（道東ブロック・オホーツク）

他に常任委員（穴田委員長、河田総務部長、石田研究部長、名越財政部長、三浦事務局長）を加え、計9名で構成

#### (2) 平成24年度の検討課題

- ①道へき・複連の組織体制の改善と情報のあり方
- ②研究推進委員会事業内容の改善の検討
- ③道へき・複連の財政健全化に向けての検討
- ④今後の全道大会・プレ大会及び全国大会についての検討
- ⑤次期へき地級指定見直しに関する件について
- ⑥各地区からの提出課題の検討

## 24年度大会部報告

副委員長 若山 真

- 1 大会名 第61回全道へき地複式教育研究大会  
石狩大会  
第62回全道へき地複式教育研究大会  
日高プレ大会  
第61回全国へき地教育研究大会和歌  
山大会

### 2 石狩大会の概要

- (1) 研究主題  
『主体的・創造的に学び、豊かな心で  
たくましくふるさとを拓く子どもの育成』
- (2) 石狩大会スローガン  
『夢と希望をふくらませ、たくましく生きる  
石狩の子らに豊かな心と確かな学力を』
- (3) 開催期日  
平成24年 9月20日(木)  
平成24年 9月21日(金)
- (4) 大会内容  
20日(木) 全体会 (ホテルライフオート札幌)  
・開会式 基調報告  
・記念講演 講師 佐々木 義朗 氏  
『全ては地域と共に』  
・感謝状贈呈  
・次期開催地挨拶 (日高大会実行委員会)  
・閉会式  
※歓迎交流会 (ホテルライフオート札幌)
- 21日(金) 分科会会場 3市1町6会場  
〔分科会会場校〕  
・第1分科会・・・当別町立弁華別小学校  
・第2分科会・・・江別市立北光小学校  
・第3分科会・・・千歳市立支笏湖小学校  
・第4分科会・・・千歳市立東小学校  
・第5分科会・・・石狩市立厚田小学校  
・第6分科会・・・石狩市立望来小学校
- (5) 石狩大会参加者数  
・全体会参加者 80名  
・分科会参加者数 450名  
・歓迎交流会参加者数 50名

### 3 第62回全道へき地複式教育研究大会日高プレ大会の概要

- (1) 研究主題  
『主体的・創造的に学び、豊かな心で  
たくましくふるさとを拓く子供の育成』
- (2) 日高大会スローガン  
『日高の大地に生きる若駒のような子らに  
豊かな心と確かな学びを!』
- (3) 開催期日  
平成24年10月 5日(金)・12日(金)
- (4) 日高大会会場校一覧  
・第1分科会・・・えりも町立えりも岬小学校  
・第2分科会・・・えりも町立笛舞小学校  
・第3分科会・・・浦河町立野深小学校  
・第4分科会・・・新ひだか町立東静内小学校  
・第5分科会・・・平取町立紫雲古津小学校  
・第6分科会・・・平取町立二風谷小学校  
・第7分科会・・・日高町立里平小学校

### 4 第61回全国へき地教育研究大会和歌山大会

- (1) 和歌山県研究主題  
『へき地・小規模・複式学級を有する学校  
特性を生かし、地域に根ざした教育実践を  
深め、主体的・創造的に生きる子どもの育成』
- (2) 大会スローガン  
『紀の国わかやま発 子どもたちの未来を  
拓くひたむきな人間力を育む教育』
- (3) 開催期日  
平成24年10月18日(木)～19日(金)
- (4) 分散会提言者  
分散会4：学習指導の深化・充実  
上川管内東川町立東川第一小学校  
後藤直宏 教諭

## 平成24年度 研究部報告

副委員長 石田 篤司

### 1 研究主題

主体的・創造的に学び、豊か心でたくましくふるさとを拓く子供の育成 ～へき地・複式教育の特性を生かし、児童一人一人に未来をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の充実を目指して～

### 2 研究活動の重点と成果

道へき・複連第8次長計の4年次として、実践研究を充実させ、地域に根ざした魅力ある教育活動の創造・発展に努める。

#### 《重点》

- (1) 「第61回道へき地複式教育研究大会石狩大会」の成功を期した現地実行委員会との連携及び共同運営
- (2) 道へき・複連第8次長計「評価・発展期」初年度としての確かな実践と記録の累積収集
- (3) 道へき地複式教育研究大会日高プレ大会の効果的な開催
- (4) 道へき・複連第9次長計策定を目指した「長計策定委員会」の推進
- (5) 研究資料・情報等の編集と発行(「研究主題・指導形態等一覧」「研究部情報」)
- (6) 各地区へき・複連及び全国へき地教育研究連盟、教育関係各機関・団体との連携

#### 《主な成果》

#### ◎第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会

9月20・21日、石狩管内6会場で開催され、全道から延べ500名を越える参加者があった。大会スローガン「夢と希望をふくらませ、たくましく生きる石狩の子らに豊かな心と確かな学力を！」のもと、20クラスの授業公開、熱心な研究協議が行われた。

#### ◎第62回全道へき地複式教育研究大会日高プレ大会

10月5・12日、日高管内5町7会場において開催され、全道各地からの参加があった。大会スローガン「日高の大地に生きる 若駒のような子らに豊かな心と確かな学びを！」のもと、自ら学び合う児童の育成等について授業公開、研究協議が行われた。

#### ◎第27回全道へき地複式教育実践研究発表大会

10月26日、ホテルライフオート札幌において行われ、総勢40名の参加があった。2年ぶりの開催であったが開催時期や旅費削減の影響もあり、一般参加者が少なかったのは残念である。

管内3地区から第8次長計に基づいて発表された提言はいずれも質が高く、活発な研究協議がなされた。講演では、北海道教育大学釧路校講師の戸田竜也氏より、特別支援と「育ちと環境」における学校教育の在り方等についてお話をいただいた。

#### ◎研究主題等一覧の集計と活用

全道の加盟校の研究主題・研究分野、教科等指

導形態について調査集計し、分析を加えてまとめた。各地区及び加盟校にCD化して配布、ホームページにも掲載して活用を図っている。

### 3 研究部事業報告

5月21日 第1回企画・長計策定委員会

- ・企画・長計策定委員会の体制と業務内容
- ・道へき研石狩大会の参加協力体制について
- ・日程・役割分担の確認と研究推進委員会の運営について
- ・9次長計策定進捗状況

5月21日 第1回研究推進委員会

- ～22日
- ・平成24年度研究部計画の確認
  - ・研究推進委員の業務・役割分担
  - ・日高プレ大会の助言者決定
  - ・各管内へき・複連活動状況交流

7月9日 第2回企画・長計策定委員会

- ・9次長計策定進捗状況
- ・道へき研、プレ研進捗状況
- ・実践研究発表大会に向けて
- ・今後の研究と資料蓄積について

7月9日 第2回研究推進委員会

- ～10日
- ・研究主題・指導形態等調査発行
  - ・研究部情報第1号発行
  - ・実践研究発表大会の運営検討
  - ・石狩大会、日高プレ大会への具体的協力について

9月20日 第61回全道へき地複式教育研究大会石狩大会

- ・石狩管内6会場(研究協力者)

10月5日 第62回全道へき地複式教育研究大会日高プレ大会

- ・日高管内7会場(研究協力者)

10月25日 第3回企画・長計策定委員会

- ・実践研究発表大会運営確認について

10月25日 第3回研究推進委員会

- ・実践研究発表大会の運営確認と準備
- ・発表者・司会者・記録者等打合せ

10月26日 第27回北海道へき地複式教育実践研究発表大会

1月11日 第4回企画・長計策定委員会

- ・今年度の活動のまとめと次年度への展望
- ・実践研究発表大会の反省
- ・9次長計策定原案について

2月14日 第4回研究推進委員会

- ～15日
- ・研究部情報第2号の発行
  - ・9次長計原案提案
  - ・今年度の事業反省・まとめ
  - ・各管内へき・複連活動状況交流
  - ・次年度の事業計画、研究推進体制について

# 財政部報告

財政部長 名越 修彦

## 1 平成24年度業務執行について

- (1) 会計業務については、事務局及び各部、各委員会、各地区へき・複連との連携を図り、計画に従って執行しております。
- (2) 道へき・複連会費については、当初予算より会員数が増加したため、納入額がやや増の状態となっております。おかげさまでほぼ予算案通り執行してまいりました。
- (3) 全へき連会計については、前年度より会員数が大幅に減少したことにより納入額が減っております。全へき連への免除申請を行い、負担金を決定し、全へき連への負担金送付を終えております。また、今年度から新設された管理職負担金につきましては、各地区のご協力により入金され、全へき連へ送金を終えております。
- (4) 刊行物の購読促進については、全へき連発行の「へき地・複式・小規模学校の実践事例集」のみの取り組みとなりました。各地区へき・複連においては発刊の趣旨をご理解賜り、ご協力いただいたことに感謝いたします。  
 なお、送金先については、各地区へき・複連から直接全へき連へ納入することになっております。
- (5) 運営資金会計は、予定よりも若干増加しました。納入された金額の中から規定通り全へき連へ送金いたしました。各地区へき・複連のご理解・ご協力に心より感謝申し上げます。

## 2 平成25年度の予算編成について

- (1) 予算編成における収入の見込みについては、学校の統廃合や学校規模の縮小により、学校数・教職員数の減少等が予想され厳しい情勢となることは必至です。予算編成の基礎資料として、3月末に各地区へき・複連の加入校数・教員数を調査し、収入予定額を把握した上で予算を編成します。各地区の担当者の皆様にはお手数をかけますがよろしくお願いたします。
- (2) 平成25年度の一般会計については、できる限り活動規模を縮小しないように、削減可能な項目を意識して予算編成し、平成25年度総会に提案します。
- (3) 現在執行中の旅費規定は、予算編成の作業の中で検討し、削減が必要な場合ご協力を願うことも予想されます。
- (4) 全へき連会計は、納入される負担金の範囲内で執行します。各地区へき・複連においては引き続きへき地教員の納入拡大への働きかけや、養護教員・事務職員の納入、および未加入校の加盟を促すようお願いいたします。
- (5) 刊行物会計については、平成25年度も、本道の実践も盛り込まれた全へき連の刊行物発行が予想されます。各地区へき・複連においては、研究図書を購入として予算付けし、購読促進の取り組みをぜひお願いいたします。

### 平成24年度 一般会計執行状況 (平成25年 1月16日現在)

#### 【収入の部】

費目	24年度予算	1/16決算	増・減(△)
会費	3,547,686	3,551,688	4,002
繰越金	383,469	383,469	0
繰入金	800,000	800,000	0
雑収入	345	1,457	1,112
合計	4,731,500	4,736,614	5,114

#### 【支出の部】

費目	24年度予算	1/16決算	増・減(△)
研究大会費	510,000	510,000	0
研究調査費	2,040,000	1,485,680	△554,320
研成刊行費	700,000	600,000	△100,000
事務局費	1,481,500	1,089,104	△392,396
合計	4,731,500	3,684,784	△1,046,716

◇学校数 288校

◇教員数 1628名

【差引残高 (1/16現在)】 4,736,614円－3,684,784円＝1,051,830円



## 第62回

全道へき地複式教育研究大会日高大会  
の開催に向けて

日高へき地複式教育研究会 副会長  
日高大会実行委員研修会 研究部長 小泉卓真

## はじめに

昨年の10月5日・10月12日の2週にわたり、えりも町立えりも岬小学校、えりも町立笛舞小学校、浦河町立野深小学校、新ひだか町立東静内小学校、平取町立紫雲古津小学校、平取町立二風谷小学校、日高町立里平小学校の5町7会場において、第62回全道へき地複式教育研究大会日高プレ大会が開催されました。

全会場を合わせ、全道各地よりおよそ320名の先生及び学校関係者の皆様にお集まりいただきました。当日の公開授業、全体会ならびに研究協議では、研究の深化・充実に向けて貴重なご意見・ご助言をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。

また、本研究大会開催にあたり、多大なるご支援・ご協力をいただきました北海道へき地・複式教育研究連盟をはじめ、北海道教育庁日高教育局、日高管内教育委員会連絡協議会、各町教育委員会、会場協力校等、関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

この日高プレ大会で明確になった成果と課題を整理し、次年度に向けてさらなる研究の焦点化を図り、実りある大会となるよう努力してまいります。

## 1 日高プレ大会の成果と課題

日高プレ大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第8次長期5か年研究推進計画に基づく研究課題の検証と各学校の実情に即した実践研究の推進を図るため、「学習指導分野」の「第6・7課題」を研究の中心に据え実践を積み重ねてまいりました。その結果、以下のような成果と課題が明確になりました。

## 【成果】

- 工夫した課題設定により、学習意欲が高まり、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- 発表の場面を設定することで、発表の仕方が身に付き、自分の言葉で伝えようとする意識が育っ

てきた。

- 指導過程を定着させることで、学習の見通しをもって授業に臨むことができるようになった。
- 間接学習のルールが概ね身に付き、主体的に学習しようとする姿が見られるようになった。
- ホワイトボード等の活用により、児童の思考を助ける教具の活用法と有効性が明らかになってきた。

## 【課題】

- 学習意欲を高める課題設定と解決の見通しのもとせ方について研究を深める。
- 発達段階に応じた発表の仕方や聞き方を定着させ、伝え合い学び合う交流の場の充実を図る。
- 指導の重点を明確にし、直接指導と間接指導の時間配分を考慮した四段階指導過程の工夫を図る。
- 学習リーダーの育成と学習訓練により、主体的に課題に取り組む間接学習の充実を図る。
- 児童の思考を助ける教具について、使用目的を明確にした効果的な活用法の工夫を図る。

## 2 日高本大会に向けて

第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会は、道へき・複連第8次長期5か年研究推進計画の最終年次となりますので、以下の観点で研究を進め、第9次長期5か年研究推進計画へつなげていきます。

- ◎第1分野「学習指導分野」については、引き続き研究の中心を「第6・7課題」に据え、プレ大会の成果と課題に基づく研究の深化・充実を図る。
- ◎第2分野「学校・学級経営分野」については、各学校のおかれた条件・状況を踏まえ、家庭・地域・近隣校等と密接な連携を図った教育活動を積極的に取り入れることで、研究の深化・充実を図る。

第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会は、平成25年9月26日～27日に開催いたします。日高へき地複式教育研究会としましては、本大会に向け、これまでの研究成果や課題を踏まえ、一層充実した大会となるよう組織をあげて研究推進に努めたいと考えております。各関係機関の皆様には、今後益々のご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

## 第63回

全道へき地複式教育研究大会  
十勝プレ大会の開催に向けて

十勝へき地複式教育研究連盟

研究部長 原見寿史

## 1 十勝へき地複式教育研究連盟の歩み

昭和23年9月10日、教育に対する熱き情熱と使命感に燃えたへき地に勤務する幾多の先輩たちが一堂に会し、参加16町村をもって十勝単複教育連盟が誕生しました。その年の11月7日には全道単複教育連盟に加入し、4年後の昭和27年には帯広市を含めた8市町村で第1回全国単複教育研究大会が開催されました。

十勝の複式教育は、それから60年余りの歩みを続けてきています。その間、昭和35年、昭和48年、昭和62年、平成12年の4度にわたって全道へき地複式教育研究大会が開催され、平成12年の大会では、「新しい世紀の幕開けに輝く十勝野を翔る子らに 豊かな感性とたくましく生き抜く力を！」をスローガンに、12会場において生き生きと学ぶ子どもたちの姿を全道に発信し、高い評価をいただきました。

そして、今年度は、十勝プレ大会へ向けて、全3ブロックにおいて研究大会を開催し、管内共同研究の改善・充実を図ってきました。これまでの共同研究で積み上げられた成果と課題は、管内教育の充実・発展に大きく寄与するものであり、さらに、全道へき地複式教育を推進する上での指針となることを強く期待しています。

## 2 十勝プレ大会の位置づけ

第63回全道へき地複式教育研究大会十勝プレ大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第8次長期5カ年研究推進計画の最終年にあたり、実践検証のまとめの大会となる。

十勝へき・複連は、今年度の推進重点を「『共に・育つ・学び合い』から、新たな展望を開く！（管内共同研究体制の確立）」と設定し、道へき・複連第8次長計第5年次との関連を明確にして、管内共同研究体制の確立により、へき地・複式校のもつ「へき地」「小規模」「複式形態」の特性を生かした十勝ならではの複式教育の深化・充実を図っていく。そして、第8次長計の実践研究の成果をまとめ、残された課題を整理して第9次長計への展望を明確にし、次年度の本大会へ繋げていきたいと考えている。

## 3 十勝プレ大会の研究の概要

## (1) 研究の基本構想

①道へき・複連の第8次長計と関連させ、管内へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、2分野8課題による課題別研究方式を継承した研究推進に努める。

◇学校・学級経営の深化・充実

地域の教育的課題を踏まえ、家庭・地域社会とともに「豊かな心」を育てる特色ある学校・学級経営を創造する。

◇学習指導の深化・充実

地域に根ざした主体的・創造的な学びにより「確かな学力」を育てる学習指導を創造する。

②「長期・課題別・共同」の研究三方式、「へき地・小規模・複式形態」の三特性を生かしたへき地複式教育の推進を図る。

③学習指導要領の趣旨を踏まえ、実践研究の交流を活性化させ、望ましい指導法の改善・充実に努める。

## (2) 研究の視点

へき地・複式の利点を生かした教育を推進する上での「5つの視点」を明確にした。

①三特性を生かした研究になっているか。

②学校の特性を生かした研究になっているか。

③地域の特性を生かした研究になっているか。

④地域の教育素材を生かした研究になっているか。

⑤教育課程の工夫改善を図る研究になっているか。

## (3) 具現化の柱

へき地・複式の利点を生かした教育の推進のため、次の3点を具現化の柱として示した。

①環境を生かす

⇒自然環境、学校規模、地域素材、地域人材

②複式の問題解消

⇒コミ能力の向上、個に応じた指導

③教育課程の改善充実

⇒異学年連携、近隣校との連携、学びの連続性

## 4 さいごに

最後に、第63回全道へき地複式教育研究大会十勝プレ大会に、全道各地よりたくさんの方々にお集まりいただき、今後の北海道へき地・複式教育のあるべき姿について、管内、全道の仲間とともに学び合う有意義な機会となることを期待しています。